

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

本校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	友だちどうしの遊びの中から暴力に発展したものや、自分の気持ちがコントロールできずに器物破損に至ったケースがあった。本校では、「言葉」も含めて暴力を許さない学校づくりを進めており、暴力行為は「生徒間」も含めて年々、減少傾向にある。自己の言動をコントロールし、問題行動を抑止できる生徒育成に向け、さまざまな取組みを進めている。今後も暴力行為は0件になるよう、生徒の内面理解を深めていく。
② いじめの状況等	冗談から徐々に相手に対して不愉快な言動をとる場面があり、当事者以外の第三者から教職員への訴えにより、早期に発見・解決することができた。本校では、いじめアンケートの他に、独自で作成した「今週のできごと」(一週間ぶりかえりシート)を利用し、SNS上のトラブルも含め、できるだけ小さな心の変化にも、早期に対応する体制をとってきた。このことが、いじめを許さない環境づくりの一翼を担っている。今後も、生徒の微かな変化も見逃さない体制を作り、生徒が安心して過ごせる学校の維持に努める。
③ 小・中学校における不登校の状況等	本校の生徒は、無気力や怠学傾向の生徒が割合的に多く、担任・学年を中心に家庭訪問や電話連絡を行い、家庭と連携を図ってきた。また、進路を含めた「生き方」を考えさせることで、別室登校を積極的に促すなど、「引きこもらない」生徒の育成に努めている。徐々に登校できるようになってきた生徒もいるので、今後も、保護者と協力しあい、また、地域関係諸機関との連携を充実させ、現在の取組みを進めていく。
④ 高等学校における長期欠席の状況等	
⑤ 高等学校における中途退学の状況等	